

令和2年度小松市立丸内中学校 学校評価1（年度末）

めざす児童生徒像

- 「自主・自律・活力ある丸中生徒」
- ・主体的に学習や活動に取り組む生徒

・自らを律し、他と協調し、心を通わせることができる生徒

・進取の気性に富み、たくましく生きる心身を持った生徒
- <自主>

<自律>

<活力>

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

				中間				年度末					
目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定） 学校重点項目	授業改善	①、②の教員の割合が80％	① 生徒が主体的に学びたくするような授業改革に取り組んでいる。	100				100				・①、②については、全教員が意識して取り組んでいる。 ・ICTの活用に関しては、生徒への提示等、教師による活用は定着してきているが、生徒自身が活用する部分についてはこれからである。	・①、②に関しては、引き続き、より効果的な取り組みを推進していく。 ・生徒一人1台のタブレット端末の活用について、全教員が確実に行い、より効果的な方法を工夫していく必要がある。
			② 学びのルールに基づき、「聴く」「話す」姿勢を定着させる場を設定している。	100				100					
			③ ICTを効果的に活用し、主体的に自己表現できる場を設定している。	60				50					
			集計										
目標		項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目							達成状況の分析		改善策
重点項目 石川県共通	働き方や業務の改善	①、②の割合が100％ ③の割合が90％	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	80				87.5				・時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合は減少傾向にある。 ・校務分掌の平準化については、課題があるという意見が多い。 ・職員室の環境整備は、机上はもちろん共有スペースの整備についても日頃から意識すべきであるという意見が多数ある。	・働き方改革について、その意義や必要性について十分に理解することにより、勤務時間意識の向上をさらに図る。 ・校務分掌や業務の平準化については、校内校務分掌組織の見直しや人的配置の工夫などを含め、今後改革を進めていく。 ・職員室内の環境整備・書類整備を意識していく。
			② 職員室の環境改善や文書管理の整理がなされている。	73.3				75					
			③ 校務分掌や業務の平準化がなされている。	53.3				40					

小松市共通重点項目	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果（％）			※差	数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策		
					教員	児童生徒	保護者		教員	児童生徒	保護者					
指導力の向上	学校研究	③の教員の割合が80%	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	80				100				①②については、本校の研究主題に沿った内容で、星槎学園中等部北斗校の稲葉茂先生にオンライン講話をしていただいたり、研究授業をもとに抽出生徒を見取り、その内容を授業整理会で反映させたりしたことが、100％という高い数値につながっている。 ③については、研究主題の「聴く」というキーワードが職員の中に根付いており、それぞれが意識して授業を行っている結果であると考えられる。	①②③について、次年度以降も同様に続けていく。		
			②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	86.7				100							
			③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組む、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	80				93.3							
		集計														
	授業	①、②、③の生徒の割合が前期70% 後期80%	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	87.5	87.1		-0.4	92.9	85.8		-7.1	①②については、目標指数を上回っている。引き続き指導にあたっていく。 ③④については、教師の結果が目標指数を大きく下回っている。授業の中で、根拠を書いたり説明したりする活動を取り入れてはいるが、まだ途上である。数値としては下回ったが、今後も根気よく指導にあたっていきたい。また、生徒と教師との間で差があるのは、教師が求めるラインまでに達していないと考える。生徒にどこまで求めるのかを示す必要がある。 ⑤⑥については、聴く視点に重点をおいた授業づくりやICTの活用、振り返る場面の導入などにより、生徒の学習意欲を喚起させたり、わかる喜びを実感させたりしたことが高い数値につながっていると考えられる。	・自分の考えを深めるために、ペアやグループで活動するような場面を授業の中で意図的に設定する。 ・教師対生徒の1対1の対応で授業を進めていくのではなく、生徒と生徒をつなぐ意識を持って授業を進めていく。 ・教師が脱SOS（しゃべりすぎ・おしえすぎ・しじしすぎ）を心がける。 ・教科部会を定期的に開催し、教科間で連携を取って指導力向上に努める。 ・全教員が、子どもたちの学びのために授業改革にベクトルをあわせて取り組む。		
			②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	87.5	91.0		3.5	92.9	87.1		-5.8				
			③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	56.3	78.1		21.8	50	74.7		24.7				
			④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	93.8	85.4		-8.4	57.1	82.4		25.3				
			⑤	児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	94.4	92.1		-2.3	92.9	87.8		-5.1				
			⑥	児童生徒は、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	100	94.7		-5.3	78.6	94.6		16				
		集計														
		学力の定着	学力調査	①の教員の割合が 中間・・・70％ 年度末・・・80％	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	92.9				93.3				①については、多くの教職員が徹底して行っている。 ②については、学校力向上ロードマップを全職員が理解しているとはいえず、あまり機能していない。 ③については、今年度、学力調査の結果や分析、成果や課題の共有は行われなかった。	①については、今後も徹底して行っていく。 ②については、学校力向上ロードマップの作成を各校務分掌で分担し、学年会や校務分掌部会で定期的に検証する時間をとりたい。また、学校力向上ロードマップの共通理解を徹底する方法を工夫する。 ③来年度は、学力調査の結果や分析、成果や課題の共有を行いたい。
					②	学校力ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	76.9				66.7					
					③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	41.7				40					
集計																
家庭学習	家庭学習強化週間の達成率を80％以上にする。		①	自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	64.3	72.8		8.5	50	71.9		21.9	①については、テスト前や長期休みでは、計画を立てて勉強しているが、日頃から計画を立てて勉強しているとは感じられない。 ②については、担任を中心に、家庭学習の評価・指導を行っている。	①については、はじめは短期ごとに計画を立てさせ、少しずつ自分で計画を立てて勉強できるよう、教職員が導いていかなければいけない。特に1年生では、丁寧な指導が必要である。 ②学年に合った評価・指導をしていく。保護者からのコメントについては、生徒の振り返りと併せて学年だより等で紹介し、取り組みをより充実させていく。		
			②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	64.3				92.9							
		集計														